



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	興国インテック大浜第二工場メディカル第一棟新築工事	BEE	1.8	BEEランク	A	★★★★
------	---------------------------	-----	-----	--------	---	------

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6 / 5		ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	4.1 / 5		よい
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 / 5		ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7 / 5		がんばろう

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	3.6
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ④床: 塗床20年、壁・天井: 鋼板パネル40年 ④給水管: 水道用ポリエチレン(B)塩ビライニング鋼管(B)、汚水排水管: 塩ビ管(B)、雑排水管: 塩ビ管(B)、Eは不採用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤敷地内既存緑地を保存、外構緑地指数20%以上50%未満を確保 ⑥空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦外壁に断熱サンドイッチパネルを採用し、熱負荷に配慮した計画 ⑨太陽光発電システムを採用、エネルギー面にも配慮 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪自動水栓及び泡沫水栓に加えて、節水型便器を採用 ⑪農業用水を利用 ⑫OAフロア、スライディングウォールを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている ⑬ノンフロン断熱材を採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭LCCO2排出量=80% 	Q-1 2 2.1 2.12 ① Q-1 3 3.1 3.13 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)	得点	4.1
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯建築基準法の1.5倍の耐震性能 ⑰節水型器具を過半以上に採用、配管の系統を区分、受水槽に蛇口を設置 ⑰耐震ガラス ⑰精密機器を地上階に設置、災害時使用可能な有線電話設置、ネットワーク機器に無停電装置設置 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)	得点	3.5
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱階高3.9m以上確保 ⑲壁長さ比率=0.1以下 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)	得点	2.7
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑳敷地内既存緑地を保存、外構緑地指数20%以上50%未満を確保 ㉓空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている ■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善) 	Q-3 1 ⑳ 2 ㉒ 3 3.2 ㉓ LR-2 2 2.5 ㉔ LR-3 2 2.2 ㉕	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	興園インテック株式会社 大浜第二工場メカニカル第一棟新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県掛川市下土方字畑ヶ谷3065番1 他	構造	S造
用途地域	防火指定なし、法22条地域	平均居住人員	250 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,880 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2021年6月7日
敷地面積	76,771 m ²	作成者	木内建設株式会社
建築面積	9,468 m ²	確認日	2021年6月7日
延床面積	11,294 m ²	確認者	木内建設株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 4.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項	
総合	これはCASBEE静岡2016年版による評価結果です。外壁に断熱サンドイッチパネルを採用し、熱負荷に配慮した計画としている。空調室外機類は2階外部空間に集約、ルーバーを配置し、景観や騒音低減に配慮した計画としている。
Q1 室内環境	その他
Q2 サービス性能	敷地内に緑地や芝生を多く採用し、環境に配慮した計画としている。空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内熱環境の向上に努めている。
Q3 室外環境(敷地内)	
LR1 エネルギー	断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。太陽光発電システムを採用するなど、エネルギー面にも配慮している。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓や、節音装置などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。また、OAFフロア、スライディングウォールを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO ₂ 排出率を80%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、管理用車両・荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい